

明智光秀謀叛本林寺

属 諸士戰死

右大臣御生害蘭丸戰死

属 安田繪功

繪本豊臣勲功記立編卷之七

江戸

八功舎

徳水刪補

明智主從逼憤怒遂叛逆屬安田繪功

君との臣を見ること。糞土の如くとも胸へ。臣亦君を寇讐の如くもと。先言
頗舉思ひるか。明智自向守光秀。既に主君の眞と被り。廢義司の職と退
除られたるのを知るべ。蘭丸さりづく柳辱せよ。又中湧が嫌にて怒ると
いふ。立ちゆきを歸鎧しけりが。光秀が臣家明智元馬公同治左邊。四十
郎左衛門。妻木主計頭。四三天保馬守。並河稀郡分村上和泉守。奥田左衛門
尉。二宅後毛勝。源氏尾庄毛勝。進士作左衛門海。主人の心と嘆察。怒を食て稟
しきるやう。原来公は源家の末孫。織田家譜代の長家小もあり。然るま遠
遭をも極く非道の所作。般令織田家を離すとも不可あるひとひます。急